

委員会だより

<3月2日(日) 14名出席>

【1】財務報告：97年2月度決算報告(甲斐さん)を委員会了承。建設献金について：最低100口必要な所、3月2日現在で67口、予定の約半分の人が出してくれている。今後については様子を見る。

【2】お知らせコーナー：

- (1)故マリア野場明子さんの通夜、葬儀での壮年会、婦人会のご協力に感謝。
- (2)藤沢湘南病院に入院中の下山さん、五十嵐さん順調に快方に。
- (3)補修工事、物置建設；2/9契約、2/24着工、4/18完成予定。
- (4)神父様蔵書整理2/16、2/2実施。工事進捗に伴い、再々度ご奉仕お願いします。
- (5)定例大掃除予定3/29(第5土) am10時
- (6)赦しの秘跡：3月16日鶴飼神父様ご指導
- (7)聖週間 3/27, 28, 29 pm.8時
- (8)御復活祝いパーティー；持ち寄り

(9)宣教委員会報告(七浦委員) 於湘南台カトリックセンター

1. 第5地区周辺教会及び関連施設の地図を作る。各教会で委員一名(七浦氏)
 2. 各教会の現状報告(大船、鍛冶ヶ谷、原宿、他)
 3. 短期キリスト教セミナーのアンケート集計結果
- (10)青少年対策を考える会
・名称は青少年委員会がふさわしい。
・1年たち、ようやく動き出している段階。
・若い人にメンバーに入ってもらおうべく見直し要

【3】お話し合いコーナー：

- (1)バザーについて：
・予定の10月26日は、二俣川、戸塚、原宿各教会とぶつかっている。10/19への繰り上げをバザー委員会で再検討する。来年は事前調整実施。
・バザー委員会メンバー：委員会；清水、花坂、甲斐、壮年会；上野、(未定)、婦人会；鈴木、青柳、内藤の各氏
- (2)要理学校3/30に修了式。修了者3名。
- (3)掃除の椅子対策：第2、第4週の掃除；サロンまでの間に全員で椅子を後ろに下げ、掃除後全員で戻す。また4月より椅子を一部間引く(毎週の掃除の為)。
- (4)各委員のすべき事項の明確化と連携強化が必要(例えば、葬儀典時、歌を聖歌隊に事前通知など)
- (5)中和田会報に婦人会も隔月で投稿。4月は壮年会、5月から婦人会。
- (6)婦人会からの報告：バザー、特別会計の剰余金を

建設会計に寄付する。

(7)サロン：家庭で余った菓子類を持ってきていただけると有り難い。

壮年会だより

< 3月9日(日) 13名出席 >

1. 御聖堂掃除・・・4月から第2、4日曜日ミサ後に壮年会、婦人会で簡単に行う。
2. 広報紙『なかわだ』の随筆コーナーは、5月から婦人会、壮年会で交互に担当。5月号は婦人会(本年は奇数月が婦人会、偶数月が壮年会の担当)。
3. 委員長から、神父様の蔵書整理手伝い有り難う御座いました。
4. 故マリア野場明子様の御遺族から、葬儀のお手伝い有り難う御座いました。
5. バザー委員・・・橋、上野の2名に決定。

婦人会だより

<3月9日(日) 38名出席>

- > 委員会報告
- > 下山さんが3月9日退院されました。
- > 森脇さんが2人目の女児を出産されましたので、お祝いを差し上げました。
- > 遠足---「浅草、仲見世、隅田川下り、浜離宮」に決定。立場を8時30分出発、ベイブリッジを通過、時間の余裕があれば浅草教会へ寄ります。大型観光バスなので、あと数席余裕があります。
- > 月報への参加について---第一回は吉田さんをお願いしました。書いて下さる方がない時は、グループの方達にもお願いして行きたいと思えます。
- > アフリカの「シェラレオネ」は内乱で物資不足の為、日用品、衣類を送りました。この際の送料とコンテナ代を特別会計から出すことになりました。
- > 『皆で協力しましょう』案：高齢化のことも考え、役員だけが動くのではなく皆で少しずつ手伝って行った方が良くはないかと考え、この案を出しました。4月の例会迄に考えておいて下さい。
- > お願い---連絡網が正しく流れていない事があります。メモを用意して確かめてから流して下さい。
- > 台所の隣の日本間にもものを置くときは、お名前を書いておいて下さい。

次回例会 4月20日(日) 次回当番はB地区です。

ミサ 当番表 (97年4月、5月)

| 月/日 | 主日 | 朗読、奉納 | オルガン | 月/日 | 主日 | 朗読、奉納 | オルガン |
|------|---------|--------|------|------|---------|--------|------|
| 4/6 | 復活節第二主日 | 小谷 | 大宮 | 5/4 | 復活節第六主日 | 富田 | 大宮 |
| 4/13 | 復活節第三主日 | 青年会 | 岩淵 | 5/11 | 主の昇天 | 青年会 | 岩淵 |
| 4/20 | 復活節第四主日 | 婦人会B地区 | 石川 | 5/18 | 聖霊降臨の主日 | 婦人会C地区 | 石川 |
| 4/27 | 復活節第五主日 | 七浦 | 森田 | 5/25 | 三位一体の主日 | 小野寺 | 森田 |

※当番の方は10分前には集合して下さい。

※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。(萩原: Tel 802-6258)



第224回

今月の予定

- 委員会 4月 6日
- 聖歌の集い 4月27日
- サロン 4月 13, 27日
- レジオ 4月11, 18, 25日

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区中田北 1丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141
1997年 4月6日



一九九七年の四旬節

第四の主日 メッセージ ①

山崎 正俊



◎ 今日「喜びの主日」と呼ばれていますが、その入祭誦が「喜べ、喜べ」という言葉を中心にしてからでもあります。ここでは、救いへの希望(それまでどれほどの罪深い者であったとしても、神様のほうに心を向けさえするならば、必ず受け入れられるという希望)のたしかさが、これまでになく、繰返し強調されているのです。

この救いについての神様の御配慮が、どんなに豊かで重い意味を持つものであるかということ、思い出させようとしてされているのです。私どもはツライことに突き当たると、すぐさま、神様に文句を云いたくなります。けれども、気をとりなおして、その定めを守ることに励みはじめるならば、それこそが、救いを受けていることの「印」なのです。いくらワザワイの状態が続き、ツライことが変わらないようでも、神様への信頼をもっておられるならば、それへのムクイとして、恵みをもって応えてくださるはず。罪を犯しやすくなっていたのは、神様から心が離れていたから。ことで、イエズス様の模範もそうなのですが、聖パウロの信仰に表れているものも、それと同じだったのです。

だから、聖パウロが、ファリサイ派の学者として、それまでに教えられていたことにこだわって、キリスト信者といわれている人々を迫害する側にいたことは、実は、神様にさからっていたのだと気付かされ、イエズス様のほうに心を向け直したとき、どんなに困難があっても、どんなに嫌な思いをさせられ、その生命をねらわれ、逃げまわらねばならないことが続いても、イエズス様から離れられ

なくなり、イエズス様に従うことこそ、まことに、イノチの与え主に従っていることだと、わかるようになったわけです。

そういった信仰に固められて、いま考えるから、信仰の礎がなんであるかを、その在り方と手紙によって示せたのです。

◎ 四旬節は悲しみ節とも云われ、イエズス様による救いが実現するまでの季節を意味するのですけれども、それは私たちの心が現世の事に向かっているからのこと。神様のほうに心を向けなおしするならば、その恵みを薄くしていたものは消えます。これが、神様への信頼をもって生きていくことなのです。

この御復活祭のまえだけでなく、イエズス様の御誕生を記念するまえの待降節にも、喜びの主日とされる一日があります。どんな時にも、神様への信頼を失わなければ、神様から遠のかなければ、恵みに満たされるという神様の寛大さとその心の広さを教えようとしているのです。私たちの心の狭さのために、他の人のせいにしてたり、神様のせいにしてしまったりする。神様がまことにいらっしゃるものなら、このようなツラサやフツゴウさがあるのは何故ですかと云ってしまう。そのわけは自分から神様に逆らっているからだということ、思い出させようとして、今日の典礼はしつこく、神様のイツクシミにお応えする道を教えているのです。なぜそのようなことになるかという説明はないままに。

聖パウロは何度でも、古い時代の歴史に、その事実があったということ、御自分に思い出させ、そのことを私たちにも知らせ、反省のたらしなさに問題があると云うのです。



青少年コーナー

おなかの中の神さま

石井 彰宏

うちの3才の息子は神父様の祝福だけでは物足りないらしく、大人がご聖体をいただくのを見て、「ぼくも食べたい...」とミサの度に言っていました。ある時、あまりにもしつこく言うものだから、私が手に受け取ったご聖体を少しちぎって息子に与えてしまいました(本当はしてはいけないのですが...)。それを口にした息子はとてもうれしそうで、瞳をキラキラ輝かせながら、「ありがとう。これで神様は僕のお腹の中にずっといるんだね。」と言いました。



その日以来、息子はお腹の中の神様にいつも気を使っているようです。例えば、ごはんをたべていてもお腹いっぱいになると、「お腹の中の神様もお腹いっぱいかな」とか、お風呂にはいる時も、「お腹の中の神様、お湯があつい、あついつて言ってるよ」など。たまに、「お腹の中の神様ピーマン嫌いだからぼく食べない。」と少しずるがしこい事も言いますが... 子供は本当に純粋だなとつくづく感じました。私たち大人もこんな純粋な心をいつまでも持っていたらもっと神に近づくことが出来るんじゃないかと思いました。

よい人生 その2.「甲子園球児 余聞」

小林 敬三

わたしが洗礼を受けた赤ん坊が高校生になって、見事甲子園に出場することになって以来、わたしは甲子園に関する新聞記事はすみずみまでじっくりと読んだ。

ところが、いよいよ明日開幕という日の新聞の下段に、『登録選手の変更』という記事が目にとまった。登録選手というのは、ベンチに入って試合に出場できる十五名の選手のことである。なにげなくその記事を読むと、一番目に彼の名が載っていた。登録からははずされたと言っていた。

びっくりして、仙台の父親に電話して事情を尋ねた。すると、勇んで出かけていった甲子園で練習中に、突然、肩が抜けたのだという。つまり肩の筋肉が疲労で伸びきっており、何か月も腕が使えなくなる。選手としては致命的であった。

「残念です」と繰り返す父親の無念さが、電話口の向こうから伝わってくる。

「まだ二年生だから来年もあります。気を落とさないように」と励まして電話を切ったが、その瞬間、ちょっと待てよ。これは本人にとってかわいそうなことにはちがいないが、ひょっとしたら、かえってよいことなのではないか、と思ったのだ。このできごとをとおして、彼は人生の真実の姿にふれることになるのだから。

長い人生には、このような思いがけないドンデン返しが必要である。この苦い体験に突き動かされて、人間はひと皮ずつむけていく。

ある人は、人間のことを「人間になりつつある一種の動物だ」といい放った。もしそうなら、人間は苦しい体験を経て精神的に成長することによってのみ、動物から人間になっていく。よい人生とは、苦しみのない人生ではない。過去の苦しみに意味を見いだして感謝できる人生である。そして、これこそ動物にはできず、人間にしかできない生き方なのである。

マタイ十四章には次のような話が出ている。キリストは五つのパンと二匹の魚で大群衆を満腹させたあと、祈るために一人で山に登られた。一方、弟子たちは湖を舟で渡ろうとするが、逆風で波に悩まされる。明け方のまだ暗いうち、イエスが湖の上を歩いて、弟子たちの舟に近づいてこられる。暗くてよく見えなかった弟子たちは、「幽霊だ」といっておびえ、舟のなかは大騒ぎになる。なかには恐ろしさのあまり叫び声をあげる者もいた。屈強な若者たちのはずなのに、いざというとき、からきし意気地がない。思いがけないできごとにあわてふためく弟子たちの姿は、そのままわたしたち自身の姿である。イエスはあわれみに、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と声をかけ、励まされる。イエスはいつもそうなのだ。わたしたちが恐ろしさのなかで取り乱しているとき、わたしたちをあわれみ、励ましてくださる。すると不安はたちまち失せ、荒れ狂っていたあらしも風となるのだ。(マタイ14・22~33参照)

甲子園の暗れ舞台に出場する直前に肩をこわし、登録を抹消されたあの高校生も、まるで湖の上であらしに出遭ったようなものである。周囲の期待に応え、長年の努力の結果を披露したかったであろうに、どんなに口惜しいことであろう。どうか、このあらしに巻き込まれて自分を見失うことのないようにと祈りたい。

そして、むしろこの苦しさがきっかけとなって彼が人間としてより深められ、深められることによって、日ごろ当たり前と思っていることにも感謝の念を抱き、友だちや仲間をはじめ、周囲のさまざまな存在に温かな目が向けられるようになりますように。よい人生とは、決して苦しみのない人生ではない。過去の苦しみに意味を見だし、感謝できる人生、これこそがよい人生なのである。

(「セーヌ川のだるま船」より転載させて頂きました。)

叙階式及び各教会よりのお知らせ

主の平和
寒さきびしい今日この頃ですが、皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。さて、このたび 横浜教区の大橋和人助祭が司祭に叙階されることになりました。この喜びのときに際し、これまでにお寄せ下さいました皆様方のご厚意に深く感謝いたします。彼が神のみ国の到来のため、司祭職を十分に生かすことができまますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

一九九七年二月

横浜教区司教 ステファノ 濱尾 文郎

この度、私は神の豊かな恵みと皆様のお祈り、ご援助により、司祭に叙階されることになりました。心より厚く御礼申し上げます。これまで、多くの人々との関わりの中に生かされ、支えられて参りましたが、このような弱い私が司祭職の務めを忠実に、謙遜に果たしていきけるよう今後とも一層のお祈りとご指導をお願い申し上げます。尚、お忙しいこととは存じますが、叙階式にご参列くださり、ともにお祈り下されば幸甚に存じます。

記

日時 一九九七年 三月二〇日(木)春分の日 午後二時
場所 カトリック静岡教会 静岡市静岡市城内町一丁目五
司式 ステファノ 濱尾 文郎 司教

一九九七年二月

洗礼者ヨハネ 大橋 和人

主の平安
春の訪れと共に大橋和人様の叙階のご案内を頂きました。誠に御出度うございます。私共信徒にとりまして大変うれしき事であり、座居ます。所用がありまして残念ながら出席できません私共中和田教会信者一同のささやかなお祝いのご座居ます。ご受納下さい。大橋様にはご健康に留意されまして益々のご活躍をお祈りします。

一九九七年三月十日

大橋和人様

カトリック中和田教会
委員長 清水 聖

主の平安
ようやく春の気配を感じる今日この頃ですが、皆様にはお元氣にお過ごしのことと存じます。さて、当末吉町カトリック教会は、今年で創立二〇年目を迎えることになりました。ささやかではございますが、感謝と喜びのうちに共に祝いくださいませすよう、謹んで左記のようにご案内申し上げます。

記

日時 一九九七年四月二九日(火)
場所 末吉町カトリック教会
午前十一時より感謝のミサ 司式 濱尾文郎司教
ミサ後祝賀会

なお、出欠の有無を同封の葉書でお知らせ頂ければ幸いです(準備の都合上、四月五日までに返事ください)。

一九九七年三月吉日

末吉町カトリック教会主任司祭 小笠原 優
末吉町カトリック教会信徒会長 田辺 雅之
〒二三一 横浜市中区末吉町一丁目一三
(電話・〇四五二五二一五五〇五)

追伸 教会内には駐車場がありませんので、車でのおこしはご遠慮くださるようお願いいたします。

主の平安
復活祭を間近に控え、皆様にはますますご清栄のことと拝察申し上げます。さて、私共藤が丘教会では、昨年四月から新しい教会堂の建設に総力を挙げて取り組んでまいりましたが、お陰様でこの度完成の運びとなりました。これと深く感謝申し上げます。つきましては、左記のとおり横浜教区長濱尾文郎司教様のご来臨を仰ぎ、献堂式を挙行致しますが、ご多用のところ誠に恐縮でございますが、ご来臨くださいますようご案内申し上げます。

平成九年三月吉日

カトリック藤が丘教会
主任司祭 L・ボアソノ
信徒会長 森田和夫
信徒一同

記

カトリック藤が丘教会献堂式
日時 平成九年五月五日(祝日)午後一時
場所 カトリック藤が丘教会
司式 濱尾文郎司教

なお、お手数ですがご都合のほどを三月三十日(日)までに同封はがきにてお知らせ下さいませす。

